

<送辞>

伊吹山から吹く風が少しずつあたたかくなり、春の訪れを感じます。空を飛び交う小鳥のさえずり、やわらかな光、すべてが先輩方の旅立ちを祝っているかのようです。

「卒業」の日を迎えられ、今、先輩方の胸には、どのような思いがわきあがっているのでしょうか。先輩方は、日常、そして様々な行事において、私たち在校生を力強く引っ張り、大きな感動を与えてくださいました。

今、一番心に残っているのは、体育祭です。

「一丸〜熱くなれ 仲間と共に〜」のスローガンのもと、団長が、団全員が一つとなり、全力を出し切るまで声をかけ続け、私たちのやる気を最後まで引き出して下さいました。

体育祭当日。大縄跳びで、学級全員で息を合わせ、声を合わせて跳ぶ姿。個人走や学級対抗リレーで、転んでも最後まで走り続ける姿。最後の体育祭にかける強い思いが伝わってきました。そんな先輩方の思いがあったからこそ完成した応援合戦はどの団も圧巻で、先輩方の頑張りをあらためて感じました。自分の声を枯らしてまで団員を引っ張り続けた団長の方々。それに続く団リーダーの先輩方はとてもたのしく、全力で取り組む姿に私は憧れました。

そして、「合唱集会」では、先輩方の合唱にかける思いや、思いの伝わる迫力ある合唱に圧倒されました。

合唱交流を行った三年二組の合唱はもちろん、他の学級の発表でも、指揮者に合わせた息のそろった合唱がありました。

また、学年合唱「信じる」は、私たちの合唱とは声量や気迫など、何から何までが違いました。全員が指揮者に注目し、真剣に歌う姿に、これまで創り上げてきた仲間との思いがこもっていると感じました。私たちが目指すべき合唱の姿を示していただきました。

また、先輩方との思い出の一つに「生徒会活動」があります。後期生徒会執行部の杉山先輩、中島先輩の、子どもサミットでの明るく大きな声であいさつをする姿。全校のためにとスマイルタイムを提案し、それを実行する姿。どうすれば生徒会の力で明るく楽しい学校が創れるのか、たくさんアイデアを出し、自らの姿で示してくださいました。議会や生徒会でも積極的に意見を出し、学校のために進んで取り組むと、こんなに楽しくなり、北方中の一員という意識が強くなるのだと、教えていただきました。

私たちは先輩方と出会い、多くのことを教わり、学びました。先輩方の、何事にも一生懸命突き進むパワー、光り輝くその姿に、ただただ圧倒されました。私たち在校生は、先輩方に学んだ志を受け継いで、さらによりよい北方中学校を築いていきます。今まで、本当にありがとうございました。

いよいよ、お別れのときが来ました。どうぞ、北方中学校で培った誇りと自信を胸に、自らの道を切り開いて下さい。これからの先輩方のご健勝と、ご活躍をお祈りし、お別れの言葉といたします。